

交通事故防止のために

市街地走行の場合に

心掛けること

ドライバーの交通マナーと安全運動の第一歩は、「レーンを守って、ゆっくり走る」ことにあります。特に日本の道路環境でのドライバーのモラルと安全行動能力は、スピード抑制能力がその基本となります。なぜなら、日本の道路はすべて、人々の生活圏を通り、人車が混在し、スピード走行にとって最も障害となる横断交通が分離されず、道路側方に数多く死角があるか

らです。

＜運転車の注意ポイント＞

- (1) 道路状況に見合った安全な速度で走る。
- (2) 一時停止指定場所ではきちんと停止。
- (3) 安全呼称確認の励行。
- (4) 「危ないよ」のやさしい一声を。
- (5) 次の信号でゆっくり通過。

今回は「山道走行の場合どのようにしたらよいか」です。

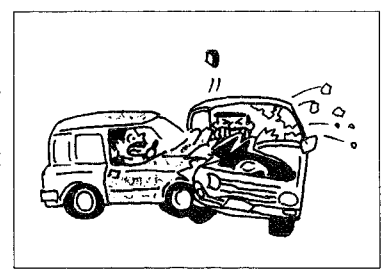
7月のキャンペーン

「心づき時間にゆとりある運転をしよう」
交通安全県宣言記念
県民総ぐるみ運動

毎月10日は
交通安全家庭の日
＜今月の標語＞
「急ぐなよ」と父のひと声
身にしみる

血液型でとらえる事故の特徴

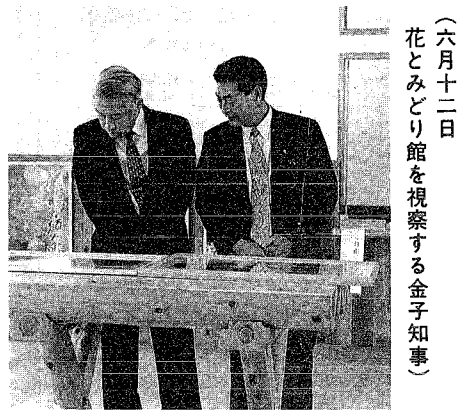
- A型**：事故は少ないですが、スピード狂が多く、事故としては、車線変更による事故や単独事故が多いのが特徴です。
- B型**：運転技術は優れているようです。重大事故は少ないものの、軽微な事故が多いのが特徴です。事故としては、交差点における出会い頭事故が目立ちます。
- O型**：交差点での出会い頭事故、左右折事故、歩行者に対する人身事故が他の血液型より多い傾向が見られます。しかし反面、一度技術を習得すると、最も事故が少ない血液型です。
- AB型**：反射神経・運動適性に優れていますが、運転中に何かに一瞬気をとられやすいタイプです。したがって追突事故が多いのが特徴です。



「ふれあいトーク」をテレビ放映

6月12日に白根市で開催された「知事とのふれあいトーク」には、町民から多数参加いただきました。下記のとおりテレビで放映しますので、ぜひご覧ください。

放映日・時間 7月4日(土) 午前11時～11時30分
放映チャンネル NST
番組名 「県民のひろば」



(六月十二日 花とみどり館を視察する金子知事)

町指定文化財

小須戸町文化財保護条例により「親鸞聖人絵伝」を指定いたしましたので紹介いたします。

第四号 大谷本願寺親鸞聖人縁起「親鸞聖人絵伝」四軸

所有者 長法寺

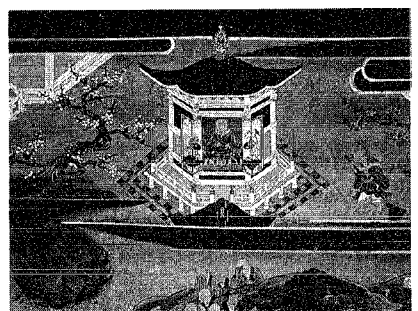
明暦三年(一六五七)三月十五日に釈覚傳によって開基され

小須戸町大字横川浜三〇六八番地 宗教法人浄土真宗本願寺派蒲原山長法寺に所在する。同寺の由緒については、「新潟県寺院名鑑」(昭和五十八年 興仏教会発行)に次のような記載がある。

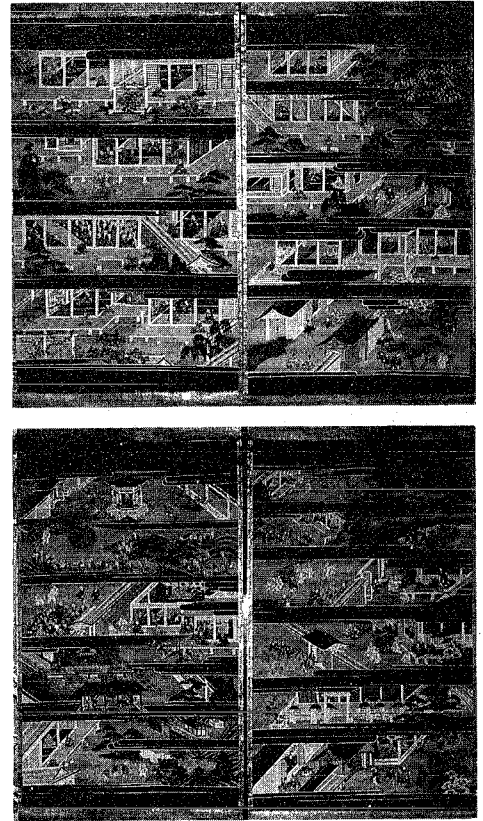
る。なお、寺としては寛文元年(一六六一)から約一五〇年前頃に、信言宗寺院として信徒によって創立されていたという記録がある。また、同寺に所蔵されている宝物類によってみると延宝期に寺基を確立し寺号を長法寺と公称しておりその際に長巖寺を手次寺としている。

本絵伝は長法寺に本願寺から下布されたものではない。裏書によれば本願寺一世顕如(天文二年一五四三)文禄元年(一五九二)天分二年一五五四継職)によって元亀四年(一五七三)七月五日に播磨国(兵庫県)飾東郡女鹿(妻鹿)村の西楽寺に海に下付されたものである。

西楽寺は、本願寺の東西南分派(慶長七年一六一〇)後は真宗大谷派(いわゆる東)に属した寺院である。本絵伝は本願寺一世顕如が大坂の石山本願寺にあって織田信長と対戦した石山戦争(元亀元年一五七〇)勃発天正八年一五八〇和陸)の最中に下付したものである。どのような経過を経て播磨国(兵庫県)飾東郡女鹿(妻鹿)村西楽寺に下付された本絵伝が長法寺にどのように伝来したものか同寺にこれに関する記録口碑伝承もなく定かでない。



る「すやり霞」が濃紺で描かれ縁取りも白く判然と描かれている。また四幅目の親鸞聖人火葬の火焰が左になびくなど定型化したものであることを示している。本絵伝は前にも述べたように長法寺に直接下付されたものではないが、近世村落としての横川浜村の成立・発展と長法寺の寺基確立との関係が推測される。



現在各浄土真宗寺院で所蔵されている絵伝はほとんど四幅でセットになった四幅絵伝である。それは、本願寺二世連如以降定型化したものがいくつかの絵所で製作され、本願寺によって未寺に下付されることとなる。長

- ※文化財調査審議会委員
- 小柳 浩平 萱森 朝夫
 - 本多 豊馬 岡田 六衛
 - 加藤 米二 吉田 吉平
 - 木村 宗文 星野 富作